

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2010年1月15日

1. 概要

実践団体名	和歌山県紀の川市立荒川中学校		
連絡先	0736-66-0003		
プランタイトル	託せ子どもたちに ～荒川の安全と未来を～		
プランの対象者	2, 3, 4, 8, 9, 10	対象とする 災害種別	1, 3, 7

【プランの目的・ここがポイント！】

- ①地域と学校が一体となって取り組む。
- ②従来の防災教育にない新しいコンセプトとして、どこの学校にもある校内放送を活用し手作りのトーク風番組に仕立てる。
- ③「作って学ぶ、聴いて学ぶ、一緒に活動して学ぶ」協働作業で防災の輪が広がる。

【プランの概要】

校内放送設備を活用した防災教育番組を『あらかわ防災ステーション』といいます。この手作りのFM放送風防災トーク番組を通して、4つのプログラムを実施しました。

- (1) 阪神淡路大震災の被災地を訪ね、阪神淡路大震災の取材編としてインタビュー形式の番組作成。(周辺の小学校でも放送開始)
- (2) 地域の自主防災組織の現状を知り、取組や課題を考える編
- (3) 平成20年度取り組んだNHK出版『12歳からの被災者学』をベースにした防災知識編の番組作成を資料化し、地域や教育機関に配布する。
- (4) タウン・ウォッチングしたデーターを下に、防災マップを作成する。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- (1) 一方的に教えられる防災教育から参加する防災教育に転換する。
- (2) 地域と学校が一緒になって防災力アップを図る取組になる。
- (3) 自分の学校だけの取組ではなく、どこの学校でも目的意識を持って手軽に効果的な学習を進めることができる。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 7月	もっと楽しみながら学べる新しい形の防災教育を模索	紀の川市危機管理消防課と相談する。	地域一体型の総合防災訓練
2008年 11月	和歌山大学防災研究教育プロジェクトの今西先生にプランニングを依頼する。	・ 和歌山大学と学校の打合せ ・ 防災ボランティアと大学・学校の打合せ	地域一体型の総合防災訓練 ・ 避難所生活時に大切な、トイレが大変というテーマでワークショップを行う。
2008年 11月	相互に協力体制がとれるように情報共有する。	学校・行政・関係団体・防災ボランティア・和歌山大学との連携会議	『あらかわ防災ステーション』の創設
2008年 1月	原稿執筆→監修→生徒とボランティアの打合せ→録音の繰り返し	12月から1回の録音毎に2週間分づつくらい放送のための録音を行う。	『あらかわ防災ステーション』防災知識編 ～12歳からの被災者学～の番組放送開始(1/19～3/19まで)
2009年 6月	毎日新聞の記者の方に被災者の方を紹介いただく	市バスのチャーター被災者で今回の録音を依頼する野原神川さんに事前訪問。	人と防災未来センターへの施設見学 野原神川さんへのインタビュー録音
2009年 9月	阪神淡路大震災を知らない世代が中学生。まず、ありのままの震災、震災の傷跡を知る	インタビュー録音用の対談台本を作成し、事前学習会を持つ。 小学校でも秋に放送開始に協力する体制作り	本校と周辺の小学校2校でも、『あらかわ防災ステーション』神戸取材編の防災番組を流す。
2010年 1月	身近な危険箇所、災害時の安全な集場所等の把握を行う	12/19に生徒と地域の自主防災組織の会長・学校と一緒に町歩き	『あらかわ防災ステーション』第3弾自主防災組織編の放送開始 「手作り防災マップ」を地域のボランティアと生徒と一緒に作成
2010年 2月	本校から周辺地域へ広げる	自治会や教育機関へ配布	番組台本の小冊子化

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	『あらかわ防災ステーション』～神戸取材編～の録音・CD化
実施月日（曜日）	平成21年8/19（水）、8/24（月）～8/28（金）
実施場所	放送：荒川中学校、録音：神戸市東灘区本山中町会館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当、講師 氏 名：中村誠司、今西 武 所属・役職等：荒川中学校教諭、和歌山大学准教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	見学・取材・録音：8/19（水）10時間 編集：8/24～28 5時間 監修：8/30 2時間 放送：9/1～9/4のお昼 各5分間番組
プログラムのカテゴリ、形式	8, 17（生徒会専門部活動、防災放送）
活動目的	2
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 番組づくりに関わる生徒も地域のボランティアも阪神淡路大震災をリアルに捉え番組づくりに活かす。 ・ 被災者の方から大規模地震の恐ろしさと日常的な備えとして大切なことは何かを聴き取る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> ① 阪神淡路大震災の被災者の方で、本校の取組に協力いただける方の選定を行う。（毎日新聞の記者の方から紹介） ② 被災者体験をお持ちの野原神川さんへのインタビュー趣旨について検討（ボランティアと生徒たち） ③ 人と防災未来センターでまずは学習と疑似体験 ④ 神戸市東灘区の書道家 野原神川さんにインタビュー録音 ⑤ 行き帰りのバスの中で、台本を下に取材部分以外の音を録音する。 ⑥ 放送開始までの1週間で編集作業を行い、CD化する。 ⑦ 9/1（火）～9/4（金）に校内放送で流す。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材：監修のための講師として和歌山大学防災研究教育プロジェクトの今西先生に指導を仰ぐ。 ・ 道具：ICレコーダー、CD-R
参加人数	22名

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

経費の総額・内訳概要	9,000円 内訳 講師謝金 5,000円 (和歌山大学 今西准教授) CD-R 4,000円
成果と課題	<p>【成果】・阪神淡路大震災を記録でしか知らない生徒たちが、資料館を見学し、そして、被災者ご自身から体験談を聴くことでリアルに大規模地震を捉え、番組をつくる為のモチベーションを高めることができた。</p> <p>【課題】・校外での取材活動を番組づくりに活かすという点は、中学校の取組とすれば結構ダイナミックな取組といえるが、費用をかけず現地取材するための交通手段を手配するのが一苦勞であった。</p>
成果物	神戸取材編は、4日分の放送であったため、1枚のCDに焼き付け、放送用のマスターとコピーされたCDを2小学校に配布すると共に、今後、多数作成し、『あらかわ防災ステーション』～防災知識編～の台本小冊子を作成した物に付録として付ける。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	『あらかわ防災ステーション』～自主防災組織編～の録音・CD化
実施月日（曜日）	平成21年12/19（土）、
実施場所	放送：荒川中学校、録音：通学路・体育館・会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当、代表者、講師 氏 名：中村誠司、辻正雄、今西 武 所属・役職等：荒川中学校教諭、荒川中学校校長、和歌山大学防災 研究教育プロジェクト准教授
所要時間または 「コマ数×単位時間」	見学・取材・録音：2/19（土）3時間、 12/28（月）1時間、1/8（金）1時間 編集：1/9～1/11 8時間 監修：1/11 1時間30分 放送：1/12～1/29のお昼 各5分間番組
プログラムの カテゴリ、形式	8, 17（生徒会専門部活動、防災放送）
活動目的	2
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災番組づくりに取り組む生徒たちと地域で自主防災に取り組む大人の人たちが一緒になって防災について体験的に活動する場をセッティングする。 ・ 地域の自主防災の現状を知り、進んでいるところや課題となっているところを子どもの視点で理解し、今、自分たちでできること将来、自分たちがしなければいけないことを学ぶ機会とする。 ・ 大規模地震だけでなく、集中豪雨など私たちの身近に生じる可能性のある災害に備えるための予備知識を大人と一緒に共有する。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<ol style="list-style-type: none"> ① 和歌山大学防災研究教育プロジェクト 准教授 今西 武先生に自主防災組織の現状を生徒たちにどう取材させ、どう小学生や中学生に校内放送で伝えるかを指導いただいた。 ② 和歌山県紀の川市の危機管理消防課から生徒たちの地元地域に組織されている自主防災組織の名簿を入手する。 ③ 自主防災会の会長（区長兼務）に取材依頼を行う。 ④ 12/19（土）「タウン・ウォッチング」と自主防災組織の現状を知る取材を同時に行う。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	⑤ 「タウン・ウォッチング」で生徒と自治区長さん方が学校までの4コースを一緒に歩きながら、大規模地震が起こった時の危険箇所を想定したり、集中豪雨の際、頻りに床下浸水などに見舞われる地域を調べ、グーグルのマップ上に記録し、写真撮影を行いデータを保存しておく。様子の録音。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	・ 人材：自主防災組織の和歌山県内の状況や働きの大切さをレクチャーいただくと共に、紀の川市内の自主防災組織の必要性について和歌山大学防災研究教育プロジェクト 今西先生に指導を仰ぐ。 ・ 道具：ICレコーダー、CD-R
参加人数	70名
経費の総額・内訳概要	28,400円 内訳 切手代 80円×30枚=2,400円 講師交通費 1,000円 講師謝金 5,000円 記録電子媒体 20,000円
成果と課題	【成果】 ・身近でありながら生徒たちには分かりにくかった自主防災組織の現状が分かった。 ・地域の自主防災組織の代表者（区長兼務）の方々と一緒に防災番組づくりができたので、学校も地域も防災の大切さを互いにより意識できた。 【課題】 ・私たちの学校がある地域では30自治会中12の自治会が自主防災組織をここ2～3年の間に作っている。 しかし、今回の「タウン・ウォッチング」や録音取材になかなか参加できないぐらい区長さん方は多忙であり、取材日程を組むことさえ困難を要した。
成果物	取材の様子を番組化した物をCDに焼き付け資料とする。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム③】

タイトル	12歳からの被災者学をモチーフにした『あらかわ防災ステーション』～防災知識編～の台本を小冊子化する
実施月日（曜日）	平成21年11/30（月）～平成22年2月5日（金）
実施場所	印刷：荒川中学校 職員室、 資料綴じ：荒川中学校 図書室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当、代表、講師 氏 名：中村誠司、辻正雄、今西 武 所属・役職等：荒川中学校教諭、荒川中学校校長、和歌山大学防災 研究教育プロジェクト准教授
所要時間または 「コマ数×単位時間」	資料のデーター化：20時間 資料編集：5時間 資料印刷：2時間 資料綴じ：1時間 製本作業：2時間
プログラムの カテゴリ、形式	8, 17（生徒会専門部活動、防災放送）
活動目的	2
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放送内容を活字化し、本校での取組が今後とも継続的に取組が行われるように資料化する。 ・ 本校が地域と一緒に取り組んだ防災教育番組を目にも見える形にし、地域の自主防災に取り組んでいる方々に学校と一緒に取り組むことへの垣根を低くすることができればと計画している。 ・ 本校だけでなく、できるだけ多くの学校が防災教育に取り組むきっかけとなるよう周辺地域の学校に小冊子を配布することを目的とする。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<ol style="list-style-type: none"> ① 手書き原稿をデーター化する。 ② 取組内容の写真をデーター原稿に貼り付ける作業をする。 ③ 本取組に参加した生徒や防災ボランティア・職員の感想を掲載する。 印刷、製本をし、ポケットを設け実践プログラム①・②をCD化した物を付録として付ける。学校や各関係機関に配布。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材：小冊子の監修にあたり和歌山大学防災研究教育プロジェクトの今西准教授に御指導を仰ぐ。 ・ 印刷機、用紙、表紙用紙、ホッチキス
参加人数	18名
経費の総額・内訳概要	41,000円 内訳 印刷機インク代 15,000円 小冊子表紙代 6,000円 更紙（生徒資料用）10,000円 コピー用紙 10,000円
成果と課題	<p>【成果】・小冊子にまとめることで、生徒たちも関わってくれた防災ボランティアの方々も振り返ることができた。</p> <p>・防災知識が小冊子にすべて網羅されているので、校内放送で聴いた生徒たちにとって更に文字を通して補完できた。</p> <p>【課題】・校内放送用の台本を防災ボランティアがすべて作成してくれたが多くが手書きであったため、約40回分の放送台本をデータ化するが大変な作業であった。</p>
成果物	『あらかわ防災ステーション』～防災知識編～12歳からの被災者学をベースに作成した小冊子

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム④】

タイトル	「手作り防災マップ」～元地区・最上地区編～
実施月日（曜日）	タウン・ウォッチング実施日：平成21年12/19（土） マップ作成作業日：平成22年1/30（土）
実施場所	タウン・ウォッチング当日：元地区、最上地区から学校、体育館 マップ作成作業：荒川中学校 図書室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当、代表者、講師 氏 名：中村誠司、辻正雄、今西 武 所属・役職等：荒川中学校教諭、荒川中学校校長、和歌山大学防災 研究教育プロジェクト准教授
所要時間または 「コマ数×単位時間」	下見作業：2時間 タウン・ウォッチング：2時間30分 データー整理作業：3時間 マップ作成作業：3時間
プログラムの カテゴリ、形式	8, 17（生徒会専門部活動、防災放送）
活動目的	2
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒たちと地域の大人の人たちが一緒に防災を考えるいいきっかけとなる。 ・ 身近な危険箇所を調べ、記録に残す。 ・ それぞれの地域の自主防災の課題が具体的に見えてくる。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域のある特定区から学校までのルートを4カ所程度選び、コースを町歩き（タウン・ウォッチング）コースを決定する。 ② 下見をして、生徒や地域の防災関係者に知ってもらおうポイントを予め捜しておく。 ③ 各コースの生徒リーダーを決め、防災マップを作るためのウォーキングポイントを申しあわせする。 ④ 生徒と自主防災組織の代表者や地域の住民とが一緒になって、危険箇所や落下物、災害時の集合場所や役立つアイテムを探しながら記録し学校まで歩く。 ⑤ 学校に到着後、体育館で避難所となった時を想定して、フロアに寝転がって音体験。そして、地域の人たちが余り知らない避難所としての学校の機能を見学してもらう。 ⑥ 当日のデーターをグーグルマップに落とし込みマップ作り。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・人材：タウン・ウォッチングの意図と方法について具体的に事前協議を和歌山大学防災研究教育プロジェクトの今西先生と打合せをし、実施時当日は生徒や自治会の方と歩いてもらう。また、防災マップ作りの作業日にも監修していただく。 ・材料：フラットファイル、修正ペン 										
参加人数	70名										
経費の総額・内訳概要	<p>24,600円</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">内訳 切手代</td> <td style="text-align: right;">5,600円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">フラットファイル</td> <td style="text-align: right;">4,000円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">修正ペン</td> <td style="text-align: right;">3,000円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">講師交通費</td> <td style="text-align: right;">2,000円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">講師謝金</td> <td style="text-align: right;">5,000円×2=10,000円</td> </tr> </table>	内訳 切手代	5,600円	フラットファイル	4,000円	修正ペン	3,000円	講師交通費	2,000円	講師謝金	5,000円×2=10,000円
内訳 切手代	5,600円										
フラットファイル	4,000円										
修正ペン	3,000円										
講師交通費	2,000円										
講師謝金	5,000円×2=10,000円										
成果と課題	<p>【成果】・生徒たちが普段から何気なく通過していた通学路が、災害時にどのような危険で一杯か具体的にイメージできた。</p> <p>・学校と地域が防災マップを共有できた。</p> <p>【課題】・具体的に分かってきた防災上の危険箇所を住民と学校が一緒になって自分たちでできること、行政に任せることの仕分け作業までは至らなかった。</p>										
成果物	出来上がった『手作り防災マップ』～元地区・最上地区編～を学校と自治会が一つずつ持ち合い成果を共有する。										

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑤】

タイトル	
実施月日（曜日）	
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式	※別紙「記入上の留意点」注3の項目から 選択記入する。
活動目的	※別紙「記入上の留意点」注4の項目から 選択記入する。
達成目標	
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 【課題】
成果物	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 立案については、和歌山大学防災研究教育プロジェクトの准教授 今西先生の御指導が全面的なだったので、立案面での苦勞はほとんどなかった。・ 学校と自治会との接点は今まで余り持っていなかったもので、自治会長さん方（自主防災組織の代表者を兼務）への調整が少し困難であった。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 取材が中心となった年度であったので、インタビューをする環境がどのような状況なのかとか、現地に着くまで分かりにくいことや予想できにくい要素が多くあったので、取り直しができにくい状況での録音当日となるが多かったので大変であった。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 苦勞した1点目は、平成21年度の取組は取材編を中心に迫ろうということだったので、学校においていただいたり、神戸まで出かけて音をとることになりました。その時、ICレコーダーを録音機として用いたので大量の音源を録音できたのは良かったのですが、お昼の5分間の番組に仕立て上げるのにカットする編集作業が大変でした。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	紀の川市教育委員会学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 取組の周知 移動用市バスの借用
保護者・ P T A の組織	P T A 役員	<ul style="list-style-type: none"> タウンウォッチングへの参加呼びかけ
地域組織	自治会 自主防災組織	<ul style="list-style-type: none"> 一般地域住民の参加 防災組織の事情についてのインタビュー
国・地方公共団体・ 公共施設	紀の川市危機管理消防課 桃山地域共育コミュニティ本部	<ul style="list-style-type: none"> 資料提供、自主防災組織との連携 学校支援ボランティアの派遣や調整
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ N P O 法人・N G O 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと	<ul style="list-style-type: none">・ 校内放送を活用した防災教育番組の作成と番組放送により、今までの、特設の防災教育ではなく、番組づくりに参加する人（生徒・防災ボランティア・地域住民・自主防災組織）、番組を聴取する人（中学生、小学生）、関わって指導する人（教師・防災ボランティア）がそれぞれに防災力をアップできる要素を含めることができた。・ タウン－ウォッチングにより、自分の町や自分の住む場所から学校までの平生、何気なく通過している場所に、災害時や日常的に潜んでいる危険な箇所を発見でき、大人と生徒がその情報を共有できた。
全体の反省・ 感想・課題	<ul style="list-style-type: none">・ 校内放送の防災的な活用の面では、ある程度自身を持って多くの人たちにお勧めできる取組であると考えます。 当初のプランニングを本校では、平成19年度から和歌山大学の防災研究教育プロジェクトの今西准教授にお世話になったので、順調に取組を発展させることができた。大変、感謝をしています。
今後の 継続予定	<ul style="list-style-type: none">・ 今後、生徒たちや地域の人たちが、防災教育を広く理解し災害に備える力をつけるためには、視聴覚教材の一つとして、「手作り防災教育番組」作成プロセス事業 が面白い取組になると考えます。・ もう一つは、防災教育の分野だけでなく、広く環境教育・道徳教育（和歌山県では市民性を育てる教育）にも転用できる発展性があると考えます。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

8. 自由記述欄 ①

(1) 『あらかわ防災ステーション』の効能

番組を作るということは、

- ① 大規模地震や風水害そのものをよく知ろうという考えが深まる。
- ② そうした災害の危険性を身近なものとして捉える。
- ③ 災害に対する備えは、何かを考える。
- ④ 地域の大人と生徒たちが一緒に考え、行動することで中学生は、自分の地域を見直し、大人は、中学生を改めて地域の住民の一人として捉え直し、期待できる存在に気づく。
- ⑤ 生徒を通して、地域のコミュニケーションが育つキッカケとなる。

(2) 次の防災教育への発展性と多様性

次なるものへの発展の可能性

- ① 書物からの番組台本
- ② 現地インタビューからの番組づくり
- ③ 自分の地域の自主防災に着目したインタビューによる番組づくり
- ④ 出来上がった教材の共有化
- ⑤ 防災教育に止まらず、防災から環境教育へ、道徳教育へ



タウン・ウォッチングのための打ち合わせ会



神戸市東灘区でのインタビュー



体育館で避難所体験（足音が大変）



わきあいあいの録音タイムの合間



よーい スタート



真剣な録音風景（一発OKか?）

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

8. 自由記述欄 ㉔

- ※ 防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。
- ※ そのほかは、1～7で記述が不足した事項、参考資料、写真等を自由に記述してください。
- ※ 3枚以内を目安に記述してください。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

8. 自由記述欄 ③

- ※ 防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。
- ※ そのほかは、1～7で記述が不足した事項、参考資料、写真等を自由に記述してください。
- ※ 3枚以内を目安に記述してください。